

心のつながりは言葉の壁を越えて ～外国人を雇用するということ～

株式会社コスモリーフ 代表取締役 杉原 麻衣

日系人に特化した派遣会社

当社は、2006年、町工場が多いことで有名な東京都大田区に設立した外国人専門の派遣会社です。在籍する従業員の約7割は日系ブラジル人、そしてペルー、アルゼンチン、ボリビアなどの日系南米人が続きます。

中でもブラジルは、1900年代初頭に日本政府の斡旋もあり、多くの日本人がブラジルに移り住んだ歴史があり、現在も160万人以上の日系人がいると言われています。

また、1989年に入出国管理法が改正されると、多くの日系ブラジル人が仕事を求めて来日しました。当社でブラジル人の比率が多いのは、このような理由によるものです。

人生を変えたブラジル人との出会い

私が初めてブラジル人労働者と出会ったのは、今から20年前、父の勤務先だった食品工場でした。当時私は大学生で、父から頼まれ夜間にアルバイトをしていました。遊びたい盛りの、放漫学生だった私の目には、外国人は良い印象に映りませんでした。言葉も通じず、私と変わらないくらいの若い子から祖父くらいの方まで、なぜそんなに働くのだろうと半ば蔑みの思いまであったのです。

それでも何とか身振り手振りで仕事に慣れてきた頃、事故が起きました。私と同世代の女の子が、機械の操作を誤り、指を切断したのです。そして、救急車に乗込む前に私を抱き寄せ、ポルトガル語で何かを訴えてきました。「EU QUERO VOLTAR AO TRABALHO!(仕事に戻りたい!)」

という言葉です。その一言は、私の心に深く突き刺さりました。大怪我をしてなお、すぐに仕事に戻りたいと考えるほど、彼らは真剣であること。笑顔の裏にいつ解雇されるかわからない恐怖や、言葉の通じない不安があること。

それまで、真剣に人生や仕事について考えたこともなかった私は、恥ずかしさと情けなさで涙があふれました。そして、いつか彼らが安心して楽しく働ける手伝いができたらと考えるようになったのです。



当社の様子

外国人を雇用するということ

日本で外国人が就労するためには、在留資格を取得する必要があります。その活動範囲は専門的・技術的に特化した能力が必要とされ、非常に限定的です。

しかし、身分や地位に基づき在留資格を与えられる「永住者」や「定住者」、「日本人の配偶者等」、「永住者の配偶者」などは、一部の例外を除き在留期間中の活動に制限がありません。このため、一般的な軽作業や単純作業などを行う職場では、

日本語が十分に話せない外国人が働いています。

雇用者が、外国人を雇い入れる場合には、まず就労資格や身分の確認が必須となります。雇用する条件や労働保険への加入は、日本人を雇用する場合と同じでなければなりません。

かつて、ほとんどの社長（雇用者）さんは、就労資格の確認をすることなくさまざまな国の人間を雇い入れ、就労させていました。そして、「働くのに資格があるなんて知らなかった」、「外国人に保険はいらなと思ってた」などということをおっしゃっていました。

「雇い入れた外国人が仕事中に怪我をしたら」、「大病を患い、長期療養が必要になったら」という状況では、雇用者と従業員に大きなリスクが伴います。当然、従業員が心身ともに健康でなければ、仕事も非効率的になったり欠勤が続いたりするでしょう。不安定な雇用は即顧客の信頼を失うことにつながるのです。特に製造業では、人材が「要（かなめ）」です。

そこで、当社では、従業員とのトラブルや意志の相違を避けるために、原則として、従業員の母国語と日本語の2か国語ですべての文書を作成します。就業規則などには、日本独特の決まりやルールがあることから、採用された従業員には必ず彼らの言語で説明します。また、日本語ができるスタッフを常駐させ、職場でのトラブルや事故を最小限に留めるよう配慮をしています。さらに、南米人の多くの宗派がキリスト教であることから、日曜日に教会に行く従業員に対しては、できるだけ配慮をしています。

従業員へのきめ細かなサポートは、彼らの無断



従業員は家族のような存在です

欠勤を防ぎ、心身の健康にもつながります。入管手続きは申請取次資格を取得し、彼らの代理となって滞在ビザの更新手続きを行うことなどの当社の取り組みも従業員が安心して働けることに役立っていると考えています。当然、雇用者は安定した経営を計画的に行うことができます。彼ら（従業員）の能力を最大限に引き出すことは、雇用者次第なのです。

心のつながりは言葉の壁を越えて ～彼らを知る、自分を伝える～

私はよく当社の従業員を花に例えます。日の当たる場所で手入れを怠らず、適度な水と栄養を与えると綺麗に咲きます。より強い花木にするためには、時に葉を千切り、芽を摘んでしまうこともあり、それらは大変な労力で、手間と時間がかかります。でもそれを乗り越えると、花木は多少のことで枯れません。

東日本大震災により、多くの外国人が津波や放射性物質を恐れて帰国しました。当社にも、派遣先から「仕事を任せて大丈夫なのか」という問い合わせが相次ぎました。

私たちは、当時のニュースや海外の情報をもとに、津波や地震の状況、万が一に備えた訓練や被災した場合の対処法などを全従業員に伝えました。彼らの思いはさまざまだったでしょうが、結果として1人の帰国者も出ることなく、仕事を続けることができました。

ある従業員の言葉が印象に残ります。「大丈夫。コスモは必ず私たちを助けるから」心のつながりは言葉の壁を越え、私たち日本人と外国人労働者に大きな信頼を築くのだと確信した瞬間でした。



毎年恒例のクリスマスビンゴ